

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育・教育現場における、子どもとその家庭に関する臨床的問題、発達過程で生じる種々の問題の理解と支援の視点について学ぶ。公認心理師、臨床心理士として病院や保健相談所における発達・心理相談の実務経験から得られた事例を通して、現代の発達臨床に関する問題への対応について解説する。また、地域資源と連携しながら支援するための知識と技能について講義する。発達臨床心理学の対象について理解したうえで、代表的な支援方法について、ワークやロールプレイを通して学ぶ。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、評価方法などについて）／発達臨床心理学とは
第 2 回	ライフサイクルと発達臨床
第 3 回	保育の場における発達の理解とアセスメント①：気質・対人関係・各種問題行動など
第 4 回	保育の場における発達の理解とアセスメント②：言葉の遅れ・吃音・コミュニケーションなど
第 5 回	発達臨床心理学の対象理解と支援①：発達障害と情緒障害
第 6 回	発達臨床心理学の対象理解と支援②：親子関係と虐待・愛着障害
第 7 回	発達臨床心理学の対象理解と支援③：学童期・思春期における心の発達と学校不適応
第 8 回	発達障害の理解と支援の視点①：知的能力障害群／コミュニケーション症群／運動症群
第 9 回	発達障害の理解と支援の視点②：自閉スペクトラム症
第 10 回	発達障害の理解と支援の視点③：限局性学習症／注意欠陥・多動症
第 11 回	発達臨床心理学の代表的な支援方法①：カウンセリング・遊戯療法・家族療法・芸術療法など
第 12 回	発達臨床心理学の代表的な支援方法②：行動療法・認知療法・治療教育・SST など
第 13 回	保育の場における発達支援の方法と他機関連携
第 14 回	保育の場における保護者理解と相談援助
第 15 回	子育て支援と保育カンファレンス
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・乳幼児期・児童期の発達特徴と臨床的問題について説明ができる。
- ・発達障害の概念と特徴を理解し、支援の視点について理解している。
- ・子どもの問題行動について、その種類、主な原因と援助の方法について理解している。
- ・子どもと保護者への共感的理解と発達支援の意義と方法を理解している。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、ワークやロールプレイ等を用いて進めていくので、積極的に参加すること。

予習・復習

あらかじめ配布された資料には目を通しておくこと。次回授業のキーワードについて調べて理解しておく。授業後には、配布資料を基に授業内容を復習し、参考文献も用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）、期末試験（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課すレポートなどの評価・提出状況、および授業態度なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。授業において配布する。
授業内で適宜、参考文献を紹介する。